

2022年度バリアフリー推進部 Annual Report

2022年度は以下の8つの柱に基づいて事業を実施しました。

助 成

1. 海上交通バリアフリー施設整備推進 (日本財団助成事業)
2. 共生社会実現に向けた移動円滑化基金事業 (日本財団助成事業)
3. ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成

情報提供

4. 交通バリアフリー情報提供システムの運営等

教育・啓発

5. 交通サポートマネージャー研修の実施
6. 公共交通事業等に向けた手話教室の実施
7. バリアフリー普及・推進

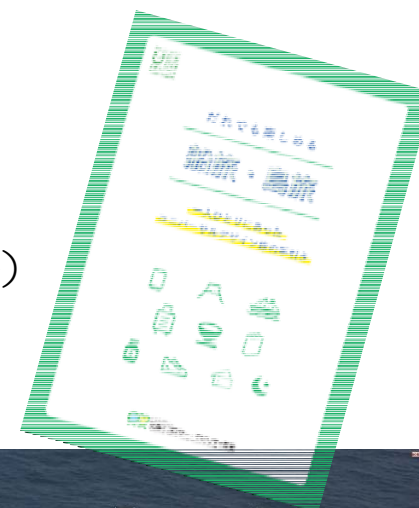
調査研究

8. 高齢者・障害者等の移動円滑化促進のための調査研究

1. 海上交通バリアフリー施設整備推進

離島等における高齢者・障害者等の日常生活航路として重要な旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリー化整備に対して助成を行い、移動の円滑化を図る事業です。日本財団の助成金を活用して実施しています。

- 助成申請受付 2022年6月1日～7月31日
- 審査委員会 9月15日開催
- 助成金の交付件数 19件（旅客船15事業者、旅客船ターミナル申請なし）
- 「だれでも楽しめる船旅・島旅」動画を作成しウェブで公開



船旅・島旅の動画と手引書

【兵庫県】ジャンボフェリー（株）
あおい
対象設備：エレベーター

【岩手県】宮古市
宮古うみねこ丸
対象設備：バリアフリースイレ



2. 共生社会実現に向けた移動円滑化基金事業

2020年パラリンピック東京大会を契機として、「共生社会ホストタウン」の拡大等、地域における共生社会実現に向けた機運が醸成されつつあります。本事業は、日本財団により造成された基金を活用し、地域における共生社会実現を目指した先進的なバリアフリーの取組みに対して支援を行っています。

○別府港旅客船UDターミナルの完成

- ・大分県内の障害当事者等向けの開所前視察会を実施（2022年12月14日）
- ・開所式（2023年1月12日）の後、ターミナル事業者への助成金を交付

○「共生社会ホストタウンバリアフリーシンポジウムin伊勢」を開催（2022年9月4日）

○「心のバリアフリー推進事業」の実施

- ・共生社会ホストタウン自治体のバリアフリーマップ作成、まちあるき、バリアフリー教室実施への助成金交付（大館市、邑南町、福島市）

○リフト付き空港アクセスバス、航空機バリアフリータラップ導入について調査等実施

○学校避難所整備支援について学校設置者と協議を開始



別府港UDターミナル(左:全景、右:バリアフリートイレ等)



バリアフリーシンポジウム

3. ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成

交通バリアフリーに関わる先進的な調査研究や活動、技術の研究等を行う若手研究者等に対して助成を行い、わが国の交通バリアフリー促進に寄与する助成事業を実施しています。

○助成申請受付 2021年11月1日から11月30日

○審査委員会の開催 2022年2月17日

○第15回報告会の開催（コロナウィルスの影響による実施遅延事業を含む、前年度までに終了した事業が対象）（2022年3月9日、3月15日）

○2022年度に採択された事業については、より良い研究活動の実現のため、4月に助成対象者と審査委員による意見交換を実施しました。

2022年度助成実績(事業名称のみ)

<若手研究者部門>

- ・障害者等用駐車区画・バリアフリートイレの利用状況把握システムの開発
- ・移動円滑化に資する鉄道駅の簡易委託化に関する研究

<一般部門>

- ・高齢介護者における身体機能および車いす操作の介助能力からみた道路のバリアフリー化に関する研究
- ・公助と自助の隙間を埋めるラストワンマイル交通サービスのしくみづくり
- ・地域の多様性と災害復興の経験を活かした交通バリアフリー教育の実践研究
- ・ナビゲーションタグの普及展開に向けた検討と課題の整理
- ・子育て当事者が求める幼児用座席を設けた自転車の安全な駐輪場に関する研究～駐輪場ガイドライン作成に向けて～
- ・誰もいない場所での目の見えない人・見えにくい人に知る移動支援

<研究・活動部門>

- ・視覚障害者のホーム転落をなくすための啓発活動
- ・暑熱環境下での移動中に道路から受ける輻射熱の身体的影響低減策の開発



4. 交通バリアフリー情報提供システムの運営等

高齢者、障害者等が公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、鉄道駅など旅客施設構内のバリアフリー設備、乗り換え案内経路のバリアフリー情報をインターネット等で提供するシステム（らくらくおでかけネット）を運営しています。

○新規及び変更のあった駅情報の更新を行うとともに、新たな取り組みとして、大規模ターミナルの構内図がわかりにくいことから、バリアフリー経路を文章で表現する取組に着手し、障害当事者の参加により市ヶ谷駅／秋葉原駅を対象に現地調査と意見交換を実施した。


○2022年4月1日から2023年3月31日までの総アクセス数は約1,086万件（約3万件／日）。

2-1. 都営新宿線からJR中央・総武線への乗換案内

・都営新宿線からJR中央・総武線までは、地上に出て屋外の移動を含む経路です。途中、横断歩道を2カ所通過します。

- ①新宿方面のホーム端にあるエレベーターで、改札階（B1）へ上がります。
※エレベーターは1番ホーム、2番ホームともに新宿方面のホーム端に設置されています。
- ②エレベーターを出て折り返すと、都営新宿線の改札があります。
- ③改札を通過し、左手にあるエレベーターで地上（A1出口）へ上がります。
- ④A1出口を出て、右に進むとJR市ヶ谷駅です。交番を通過し、横断歩道を直進します。
- ⑤スロープを通行すると、右側が「改札」です。

市ヶ谷駅／都営新宿線



乗換案内のテキスト案



トップページ



乗換案内の現地調査

5. 交通サポートマネージャー研修の実施



障害当事者が講師として参画し、交通事業者のバリアフリー接遇・介助水準の向上を目的とした研修を実施しています。本年度は受講定員の制限、手指の消毒などコロナウイルス感染症の基本的な感染防止対策を講じたうえで、首都圏3回、関西圏2回の集合型研修、神戸市交通局1回、京都市交通局1回の個別事業者向け研修を実施しました。

○交通サポートマネージャー研修実績

- ・2022年度は180名修了
累計受講者数2,011名（2022年度末）
- ・上級研修（交通事業者内のリーダー養成）は25名修了

○関連した取組

- ・講師等意見交換会（講師及び関係者の勉強会）をオンライン開催
- ・DPI障害当事者リーダー養成研修を共催（オンライン）（事務局担当した茨城の自立生活センターと連携し実施。障害当事者16名受講）
- ・特定事業者向けの交通サポートマネージャー研修「導入編」を2回開催し72名が受講



パーティション設置などの対策のうえで研修を実施



駅構内での視覚障害者の誘導実技



6.公共交通事業等に向けた手話教室の実施

首都圏と関西圏で公共交通事業等に従事する方を対象に手話教室を開催しています。障害の理解と聴覚障害者の公共交通機関による移動円滑化を図ることを目的として、東京ではオンライン講義、大阪では対面講義を実施しました。

- 首都圏（オンライン） 5月26日～7月28日（全10回）
⇒6事業者 6名が修了
- 関西地区（リアル） 5月18日～10月26日（全24回）
⇒5事業者 8名が修了

注）全講義回数の7割以上が修了要件です



首都圏(オンライン)の受講



関西地区(リアル)の開講式

7. バリアフリー普及・推進

バリアフリー整備に関してハード・ソフト両面の課題や最新の技術、制度等の動向を踏まえたバリアフリー推進勉強会を開催しています。また、大学や国内外学術団体、交通バリアフリーに取り組む団体との連携を図る活動も行っています。

一般向けには、小中学生向けバリアフリー学習プログラムの普及・出前授業の実施、冊子等を用いた公共交通機関における認知症のバリアフリー推進を図っています。

加えて障害者団体とのネットワークを構築するためバリアフリー推進アドバイザーを委任するなど、利用者視点からのバリアフリーの在り方を検討しています。

○バリアフリー推進勉強会（東京） 4回開催

（テーマ：①外からは見えにくい障害、②共生DXその1、③共生DX2、④空港ユニバーサルデザイン）

○バリアフリー推進勉強会in関西 2回開催

（テーマ：①聴覚障害、②無人駅）

○日本福祉のまちづくり学会等との共催セミナー

○小中学生向けバリアフリー学習プログラム

⇒東京都人権啓発センターと共に小学校3校、中学校1校で実施

○「おでかけサポートカード」の普及

○目には見えにくい障害への対応

※各詳細は次頁参照



新千歳での空港施設UDセミナー



📄 バリアフリー推進勉強会サイトのQRコード

○バリアフリー推進勉強会（東京）

- ・第67回 空港施設のユニバーサルデザインセミナーin千歳（2022年10月6～7日）
於 新千歳空港ポルトムホール
- ・第68回 見えにくい障害への様々な取り組み
（オンデマンド配信）（2022年12月16日～2023年1月16日）
- ・第69回／第70回 共生DX連続セミナー（2023年2月22日・3月34日）

○バリアフリー推進勉強会in関西

- ・関西第15回 聴覚障害者が語る日常生活と移動（2022年11月7日ライブ配信）
- ・関西第16回 駅の無人化と障害者の困りごと（2023年3月配信）

○日本福祉のまちづくり学会等との共催セミナー

- ・高齢社会と未来の交通セミナー（2022年9月7日）於 北星学園大学
- ・北海道のバリアフリーと交通における新しい方向性セミナー（2022年9月8日）於 北星学園大学
- ・空港施設のユニバーサルデザインセミナーin千歳（再掲）
- ・見えにくい障害への様々な取り組みセミナー（2023年3月10日）於 TIATホール

○目には見えにくい障害への対応

- ・「おでかけサポートカード」の普及（沖縄県バス協会における研修）
- ・「ひまわり支援マーク（ストラップ）」トライアルの実施（2022年4月～2023年3月、
全国5空港（新千歳、成田、羽田、福岡、那覇）及び、さんふらわあ旅客船ターミナル）
- ・飛行機を利用した発達障害者とその家族を対象としたツアーの持続可能性の検証
（アクセシブルツアーin山形 2022年10月11～13日）

8. 高齢者・障害者等の移動円滑化促進のための調査研究

2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催後、移動の円滑化に関する様々な施策の進展が見られました。施設整備のみならず、設備を円滑に使うための役務の提供、情報提供や接遇・介助に関するガイドラインも整備され、アクセシビリティの向上が求められるとともに新しい課題も生まれています。本事業ではバリアフリーの様々な課題に関する調査研究を通じて移動円滑化の促進に資することを目的としています。

- 中央大学、全国空港事業者協会等と連携し、広島空港、長崎空港、福江空港、新千歳空港、秋田空港において、ユニバーサルデザインに関する空港施設の調査（診断）を実施。
- 鉄道駅でのユニバーサルデザインに関する評価項目の検討に参加（国土交通省総合政策局バリアフリー政策課）。
- 「カームダウン・クールダウン」について、今後導入を検討する事業者等に向けて、導入事例等を掲載した冊子を作成、公開（右参照）。
- 移動円滑化に関する法制度の基礎調査（障害者差別解消法に関する調査）は、合理的配慮の義務化、鉄道無人駅に関する自治体調査を実施。



冊子「カームダウン・クールダウン」



そのほかの活動

《他団体イベントの共催》

- DPI障害当事者リーダー養成研修(オンライン)(DPI日本会議)
- 空港施設のユニバーサルデザインセミナーin千歳(中央大学研究開発機構、一般社団法人全国空港事業者協会)
- 「高齢社会と未来の交通」セミナー(一般社団法人日本福祉のまちづくり学会事業委員会、北海道支部、地域福祉のモビリティ特別研究委員会、一般社団法人土木学会土木計画学研究小委員会(新しいモビリティサービスやモビリティツールの展開を前提とした交通計画論の包括的研究小委員会)、中央大学研究開発機構、北星学園大学、一般社団法人北海道開発技術センター)
- 「北海道のバリアフリーと交通における新しい方向性」セミナー(共催同上)
- 共生DX連続セミナー(1)(2)(一般社団法人日本福祉のまちづくり学会ICT特別研究委員会中)
- 「見えにくい障害への様々な取り組み」セミナー(一般社団法人全国空港事業者協会、中央大学研究開発機構)
- 暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム2022

《他団体イベントの後援》

- 日本福祉のまちづくり学会第25回全国大会(高知オンライン)(一般社団法人日本福祉のまちづくり学会)
- 第36回リハ工学カンファレンスfrom中国・四国支部(一般社団法人日本リハビリテーション工学協会)

《他団体イベントの協賛》

- 「私とみんてつ」小学生新聞コンクール(一般社団法人日本民営鉄道協会)

《委員会等への出席》

(委員会)

- 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会(国土交通省道路局)
- 移動等円滑化評価会議(国土交通省総合政策局バリアフリー政策課)
- 子育てにやさしい移動に関する協議会(国土交通省総合政策局バリアフリー政策課)
- 日ASEANバリアフリー専門家会合(国土交通省総合政策局国際政策課)
- 移動等円滑化評価会議関東分科会(国土交通省関東運輸局)
- JISS0052改正原案佐生正委員会(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- 令和4年度ダイナミック・サイン国際標準開発国内委員会(国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- JISZ8210原案作成委員会(一般財団法人日本規格協会)
- 案内用図記号のデザイン原則及び試験方法JIS委員会、案内用図記号のデザイン原則及び試験方法JIS分科会(一般財団法人日本規格協会)
- 図記号分科会(一般財団法人日本規格協会)
- ISO/TC145/SC1 国内委員会(一般財団法人日本規格協会)
- アクセシブルデザイン推進協議会(幹事会メンバー)(公益財団法人共用品推進機構)
- アクセシブルサービスJIS原案作成委員会(公益財団法人共用品推進機構)
- AD国際標準化委員会(公益財団法人共用品推進機構)
- ISO/TC173/SC7 国内検討委員会(公益財団法人共用品推進機構)
- 新たな日常生活における障害者・高齢者アクセシビリティ配慮に関する国際標準化委員会(公益財団法人共用品推進機構)
- ISO/TC178 国内審議委員会(一般社団法人日本エレベーター協会)

(委員会つづき)

- ・ JISZ9098原案作成委員会(公益財団法人日本保安用品協会)
- ・ JISZ9098(災害種別避難誘導標識システム)原案作成委員会分科会(公益財団法人日本保安用品協会)
- ・ 第14回学術大会プログラム委員会(一般社団法人日本身体障害者補助犬学会)
- ・ ふじのくにユニバーサルデザイン推進委員会(静岡県くらし・環境部県民生活局)
- ・ ユニバーサル社会づくり推進協議会公共交通部会(兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課)
- ・ 東京国際空港ターミナルユニバーサルデザイン評価委員会(東京国際空港ターミナル株式会社)
- ・ 秋田空港ターミナルビル改装、施設設備における公募型プロポーザル審査委員会(秋田空港ターミナルビル株式会社)

(講師・講演)

- ・ 国土交通大学校令和4年度専門課程バリアフリー施策基礎研修(国土交通省総合政策局バリアフリー政策課)
- ・ 令和4年度バリアフリー講習会in宮崎港(国土交通省九州運輸局)
- ・ 人権問題体験学習会(公益財団法人東京都人権啓発センター)
- ・ バリアフリー教室(鎌倉女子大学)(神奈川県鎌倉保健福祉事務所)
- ・ 令和4年度保健医療福祉行政論Ⅱ講義(国際医療福祉大学大学院)
- ・ 総合的な学習時間「やさしさを広げよう」(蓮田市立蓮田北小学校)
- ・ おかやまUDアンバサダー養成講座(特定非営利活動法人まちづくり推進機構岡山)
- ・ 知的障害・発達障害等に関する研修会(一般社団法人沖縄県バス協会)
- ・ 2022年度マレーシア国別研修LEP2.0競争力及び持続性のある鉄道計画・開発・管理手法(日本との比較研究)(一般社団法人海外運輸協力協会)